

桜区P連だより

発行
さいたま市PTA協議会
桜区連合会広報情報委員会

事務局
さいたま市大宮区大門町3-1
TEL 048-647-4401



H29年6月3日(土)17時から、プラザウエスト視聴覚室にて定期総会が行われました。各校長先生、教頭先生、会長、副会長、広報情報委員の100名弱の出席者で議事は進みました。

今川区連合会長の再任、陶山会長、佐々木会長を新副会長に、市P協理事に井澤会長と山崎会長と担当を分けた、新しい人事体制です。今年度は

12人中6人が新会長となり、気持ちも新たに新年度がスタートしました。

また、サークルスクエア表彰があり、土合小、土合中、上大久保中の3校が表彰されました。

サークルスクエア表彰は、日頃の各校のPTA活動を、熱心にわかりやすく伝えた学校に送られる賞です。受賞校の笑顔が印象的でした。

- 及川勉(中島小P)
 - 山崎栄慈(大久保東小P)
 - 陶山功(田島中P)
 - 井澤孝行(大久保小P)
 - 顧問 鶴岡良昭(中島小校長)
 - 林大悟(新開小P)
 - 田澤崇(栄和小P)
 - 今川夏如(神田小P)
 - 神山亘(大久保中P)
 - 廣松陽子(田島小P)
 - 顧問 新井栄司(土合中学校長)
 - 鈴木健一(土合小P)
 - 佐々木珠緒(土合中P)
 - 高橋公一(上大久保中P)
- 敬称略

平成29年度 桜区PTA連合会総会

【神田小】シエフ給食
9月11日(月)は、開校40周年記念の一環でシエフ給食の日でした。調理してくださった大山シエフより「食」という漢字は人を良くすると書きまます。食材から命をいただきます。そして私たちの命になります。すべてに感謝して食事をしましょう。」とお話がありました。きのこなどを豊富に使った珍しいイタリアンに、子ども

【大久保小】
7月3日(月)大久保小学校体育館にて、さいたま市プライマリコンサートが開催されました。市民の文化芸術の振興に寄与するために、地域において、子どもから高齢者までのより多くの市民が音楽に触れる機会を提供し、音楽文化の向上を図ることを目的に開催されます。



たちも興味津々でした。



【中島小】親子ボランティア
8月23日(水)、夏の日差しが強い中、児童保護者、教職員など総勢99名が参加し、第2回親子ボランティアが行われました。翌週から始まる二期を前に、校庭の除草と校舎の窓拭きを行いました。



【土合小・中島小・新開小】
7月3日(月)、土合公民館にて、土合中島新開小学校PTAと土合公民館共催事業である「家庭サポート学級」が行われました。

今年度は、PCM認定トレーナーの星野先生の、「お子さんのやる気を引き出す言葉かけ」心と心が繋がる素敵なコミュニケーション」と題した

講演を100人以上の参加者を前に行われました。「子どもをやる気を引き出す」、そんな事ができるような声のかけ方があるな、ぜひ知りたい毎日、子どもとの接し方に悩んでいる人が多いのは参加者の聞く姿勢にあらわれており、会場からはあんなに、なるほど、と頷く声が多くありました。

【大久保中】学校ファーム
6月23日(金)に3月に植えたじゃがいもを収穫しました。各学年の保健委員の生徒と保護者が畑を掘りおとしてみて、立派なじゃがいもがごろごろ出てきて、じゃがいもは来週の給食で振る舞われるそうです。1年生を中心に中学校生活について尋ねると、異口同音に楽しい！との声が返ってきました。そんな子どもたちの様子から、学校の雰囲気の良いところを感じることができました。

【田島中】
6月15日(木)校内におけるガーデニング作業が行われました。晴天に恵まれた夏日に、校長先生、教頭先生、保護者の皆さんにより、校内の花壇やプランターに白とピンクの二重二重ソウ、オレンジのマリーゴールド、ブルーのサルビアと色

とりの花はとても鮮やかで緑の木々とともに田島中を爽やかに彩りました。

【大久保中】
6月10日(土)に大久保中学校教室にて、3回目のチャレンジスクール(C・S)が行われました。C・Sは自主的な学習をサポートし、基礎学力の向上、学習習慣の定着を目的とした事業で、PTAや地域の方々、大学生ボランティアの協力により学びの場が提供されています。5月中旬から67名の生徒の登録があり、子どもたちは「復習に役立つ」、「丁寧な教えてもらい、より理解が深まった」とC・Sの効果を上げています。1・2年生は20回、3年生は25回テスト前にも設けているので是非沢山の方に活用して欲しいと思います。



交通安全保護者の会 桜支部

7月20日(木)に浦和西交通安全協会、交通指導員桜支部、浦和西地区交通安全管理者協会、道路適正化協会浦和西支部、桜区役所、浦和西警察交通課と協力して、交通安全啓発活動を行いました。交通安全運動は春夏秋冬と実施されているのですが、今回は夏の交通事故防止運動の一環として反射材などを配布する啓発活動を行いました。これからは関係団体と協力して子どもたちの安全を守っていきます。



夏祭り

今年も各地区の夏祭りが行われ、各校PTAは学校と共に夏祭りに参加しました。この夏祭りは地域の方々と交流を深める場となっていて、夜間パトロールやバザー、学校行事のちよつとしたアイデアが生まれ、子どもたちの学校生活が良くなっています。



桜区部活動活躍

全国大会出場 おめでとう！

今年度の学校総合体育大会において、土合中学校野球部、田島中学校柔道部が全国大会に出場しました。各校では壮行会が開かれ、PTA・地域のみなさまから激励をいただきました。



▲田島中学校柔道部
▲土合中学校野球部

第1回副会長会

H29年9月2日(土)桜区プラザウエストにて、第1回副会長会(幹事校土合中)が開かれました。今川区連合会長の挨拶に始まり、終始和やかなムードで進行されました。

まず全体の議題として、「PTA本部役員各委員への介入について」というテーマで話し合い、その後、小・中学校に分かれ、PTAが抱える問題点等のフリーディスカッション形式で会議は進められました。

今川会長の挨拶の中に「各校が抱えている問題も、このような場で共有することで解決することがあるので話してみてください」とありました。他校の同じような悩みにうなずいたり、工夫された取り組みを参考にしたりと、全体とグループ、それぞれ有意義な情報交換、意見交換の場となりました。



12校の副会長が一同に会し情報共有

ウェブサイトでは桜区各校PTAの活動を発信しています。 http://www.saitama-city-pta.jp/06_sakura_ku/ 桜区PTA 検索

潜入！中島小PTA広報紙

今、さいたま市のPTAでは、広報紙の改革に取り組む学校が増えています。毎年さいたま市PTA協議会で開催している広報紙コンクールでは、審査担当の会長さんたちが全体的にレベルが上がっていると言います。また、入賞した広報紙が全国に送られ、入賞することも増えてきました。そんな中、桜区の中島小学校は、平成28年度第38回日本PTA全国協議会会長賞を受賞し、今年度佳作を受賞しました。さいたま市だけでも160を超える学校があり、全国での応募総数は相当なものです。その中でトップクラスの広報紙と評される中島小学校PTAの広報紙は、いったい何が違うのでしょうか。桜区PTA連合会は潜入調査(!?)を行いました。

従来の広報紙の問題点と理由

苦勞して作るわりに読まれていない

いつも同じだしPTAに関心ないし
なぜ？

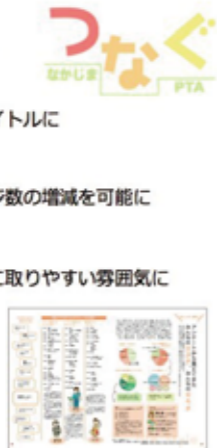
広報なんて初めてだから
去年と同じでないと作れないよ…

9月某日、事前に連絡を入れ、前年度広報委員会担当本部役員の吉田桂子さん、前年度会長の原綾さんに話を聞くことにしました。当日学校へ何うと、現役本部役員さんと新会長の及川勉さんが加わり大人数に。急きょ場所を変えようとあふたしていると、鶴飼良昭校長に発見され、満員の校長室で話を伺うことになりました。これぞ、中島小学校PTAが掲げる「オール中島」そのものだったということを知ることになります。

学校の様子や、PTA活動について、本部や委員会の構成などを聞いてみる限り、それほど他校と比べて大きな違いはありませんでした。ですが、広報紙の話になると、開口一番「広報紙はPTA活動の要である。」という言葉が飛び出してきました。PTAの広報紙といえ、毎年の掲載内容があるていど固定されていて、その内容を今年の活動と入れ替えていくために、委員さんたちが分担して取材をする。また、特集記事として今年度の特色のある活動を紹介したりというのが一般的ではないでしょうか。中島小学校さんでも以前はそのようなテンプレート式の広報紙づくりをしていたといいます。校長先生も、紙面が出来上がってからしか、見る機会はなかったそうです。それでは、どうやって変わっていったのでしょうか。

改革の内容

- 紙名&ロゴの変更
親しみやすく、デザインしやすいタイトルに
- テンプレートの廃止
定型の台割を撤廃。内容によりページ数の増減を可能に
- デザインの工夫
普段見慣れた雑誌風のデザインで手に取りやすい雰囲気
- 本部の関与
本部が積極的に関与することで委員さんの不安を減らす



- 制作例**
- 平成29年3月発行 第41号
 - 印刷部数 1000部
 - 配付先
各家庭
市内小中学校
地元自治会 など
 - 41号特集「防災」



子ども広報紙の重要な読者 → 親子のコミュニケーションツールとしての位置付け



地域の防災訓練を取材 → 地域と家庭とを「つなぐ」ミニコミ誌的な役割



読者(会員・地域の人々)に役立つ情報の提供 → 広報紙と積極的に関わりたいという意識

- まず、変えよう!と動き出す。
→テンプレートを廃止し、特集を中心に、紙面の割合も流動的に。
- 編集会議を開き、真っ白な状態から考える。
→学校のことや、家庭のこと、防災のことを考えると、「わからないこと」や「知りたいこと」が出てくる。他の保護者はどう思っているんだろう？
- アンケートを多用し、読者を紙面に巻き込む工夫を。
→自分たちの知りたいことをアンケートで調べる。
働いているお母さんと、専業主婦では時間の使い方はどうなんだろう？防災の備えは実際どれくらいしているんだろう？実際何を意用してる？「知りたい!」を紙面に!
- アンケート結果から特集記事を組む。
→より読者が読みたくなる。結果として読者は参加だけでなく、自分の話を聞いてもらえているという気持ちにもなっているのではない。防災についてのアンケートから、学校が避難所になった場合の特集。交通安全から自転車の安全、自転車の保険についての特集など。
- 読んでいて楽しい広報紙は、作っていて楽しい広報紙。
→編集会議で出た疑問や知りたいことは、読者のそれと重なり、一方通行の情報発信ではなく、双方向のやりとりを実現している。

編集会議では、学校側も加わり、学校の教育目標なども取り込んで、一緒に紙面づくりに参加している。また、児童数が500に満たないのに、発行部数は1000部を超えており、それでも足りずに増刷することもあるとのこと。地域の方々への配布もおこない、校長室でも来客の際に配布しているとのこと。普通は学校だよりを渡すのでは？と聞くと、うちのPTA広報紙には、学校のことも入ってる。だから一緒に配るんだ。と校長先生。地域の人も追加で欲しいと来校することがあるとのこと。読者が増え、広報紙がPTAと地域を繋いでいる様子を見ました。原前会長が、PTAではなく、PTCAである。と言っていた意味がよくわかりました。そして、オール中島ということもよくわかりました。そして、それらP・T・Cを繋いでいるのが、広報紙である。ということに驚き、冒頭の「広報紙はPTAの要」という言葉に繋がっていることを知りました。

こんなにがんばっていると、楽しい気持ちもあるかもしれませんが、それを負担に思う人もいるのでは？と尋ねると、「負担はあるけど、負担感は少ない。やりがいがあるって、達成感もあるから。」と。もちろん、楽しいだけでは無く、苦勞されていることもたくさんあると思いますが、笑顔でPTA活動に取り組んでいる様子でした。最後に、みなさんの好きなページを開いて写真を撮りたいと提案すると、全員がすぐにページを指定しました。それぞれに思い入れのある広報紙なのだということがよくわかりました。

※画像資料は中島小学校の関プロ事例発表用資料より抜粋



前会長:原綾・副会長:白川朋子・前広報担当本部:吉田桂子・校長:鶴飼良昭
広報担当本部:神岡美由紀・会長:及川勉・広報担当本部:田島美幸

読者の反応

- 会員: これまではすぐに捨ててしまっていたけど、これは読み返したいからとっておきます
- 子ども: 地域の方々との関わりがよくわかったつぎの防災訓練には出てみたいと思いました
- 地域の方: 字が小さくなってちょっと読みにくくなったけれど、充実した内容で読み応えがありました

広報委員の感想

- 自分の知りたいことを調べて伝えることができた
- 簡単ではなかったけれど、いいものができて満足
- やりがいを感じた子どもと読むのが楽しみ

PTA活動が変わった!

読んで楽しい = つくって楽しい

やらされるのではなく、自ら活動するPTAへ

おわりに・・・編集後記

PTA活動は学校によって少しずつ違います。また、数年たつとまた少し変化していきます。社会状況の変化や、子どもたちを取り巻く環境の変化によって、PTA活動も変わっていきます。中には負担と感じてしまう方もいるでしょう、やりがいがあれば大丈夫!などと言うのもキレイごとですね。ですが、それは子育てそのものです。子どものためならとがんばるのが保護者であり、PTA活動もその延長にあるものです。子どもが小学生・中学生になると、子どもたちどんどん保護者の手から離れ、地域の中で成長していきます。PTAは家庭と学校と地域を結び懸け橋と言われてます。PTA活動に参加して、初めて地域のボランティアの方々との存在を知ったという方もたくさんいます。子どもたちの成長に合わせて、私たち保護者の役割も、家庭から学校へ、そして地域へと広がっていきます。子どもたちのふるさとなる「地域」と「学校」と「家庭」が、会話をするツールとして広報紙を役立てている中島小学校のPTA活動に触れることができ、とても新鮮なよさがありました。中島小に限らず、互いの活動を参考にしながら、桜区全体のPTA活動をより良いものにしていきたいと思います。また、PTAに関わるすべてのみなさまに、この場を借りて御礼申し上げます。今後ともみなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。